

対タジキスタン草の根・人間の安全保障無償資金協力
ボボジョン・ガフロフ行政郡中央病院医療機材整備計画供与式報告

平成27年11月3日、「ボボジョン・ガフロフ行政郡中央病院医療機材整備計画」の計画完了を記念する供与式が開かれました。式典には、田村書記官、ボボジョン・ガフロフ行政郡副郡長、中央病院院長他、多数の病院関係者が参席しました。

ボボジョン・ガフロフ行政郡は、ドウシャンベ市から車で北に約6時間の距離に位置し、人口33万人を有するタジキスタンの中でも特に人口の多い行政郡です。郡内最重要医療機関に位置づけられている同郡中央病院には郡内一円から患者が訪れ、年間2,000件以上の手術が行われる他、産婦人科では年間3,000件以上の分娩が行われています。

郡内での重要度が抜きん出て高い同病院ですが、医療機材の殆どはソ連時代のものでした。病院関係者一同は老朽化した機材の刷新を長年希望していましたが、同郡予算では難しい状況が続いていました。

今般本計画が実施されたことで、長い間待ち望まれていた高圧滅菌器、手術台、人工呼吸器、保育器等を含む医療機材15種が一斉に刷新されました。これにより、今後同病院では更に質の良い治療を提供することが可能となりました。



中央病院の正面玄関脇には、日本の支援を示す日章旗プレートが掲げられています。



高性能の手術用ランプが新規導入され、笑顔を見せるドクター。



新生児の体温調節を助ける保育器も刷新されました。



地元メディアの関心も高く、田村書記官へのインタビューも行われました。